

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善		
小学部	(1)	ア	個別面談や保護者会, 毎日の連絡帳などを通し, 児童や保護者の教育的ニーズを十分に把握し, 医療機関・福祉機関との連絡ノートやケース会議等を有効に活用して連携を図り指導に生かしていく。	1-② 2-①② 4-③④	B	・II 課程等縦割りの合同授業の話し合いの時間を確保していきたい。 ・タブレット等ICTの活用を図るために, 台数を増やしていきたい。(各学年1台くらい)	
		イ	個別の教育支援計画や指導計画の作成, 学年会・グループ会・合同授業の話し合いなどを通じた教職員の共通理解のもと, 個に応じた指導の充実に努める。(教科の内容・系統性を踏まえた指導, 教材教具の工夫, 学習の個別化と教員の連携を図ったT・T指導の充実, 自立活動メニュー表・ICTの活用など)	1-①② ③④	B		
	(2)	ア	教室や廊下, 教材室(教材置き場)などの生活環境の整理・整頓・清掃・清潔に努め, 安全で健康な学校生活が送れるようにする。	2-①②③	B	・教室や廊下の車いす, ベッド, 教材等について, 置き場所や置き方を工夫して安全性を向上していきたい。 ・モニタリング等でさらに連携を図っていきたい。 ・緊急時のマニュアルは, 今後も随時見直しを図っていく必要がある。	
		イ	連絡ノートや外部専門家相談の活用, 連絡協議会等を通して, 保護者や医療機関, 各施設や計画相談員等と連携を図りながら, 健康で安全な学校生活を送れるようにする。(摂食指導の連携, 健康状態の把握, 自立活動の指導・緊急時の対応など)	2-①② 4-③④	B		
	(3)	一人一人の良さを尊重し, 豊かな情操を育む教育活動の推進に努める。	ア	児童一人一人を認め, 自信や自尊心を育んだり, 様々な体験学習を通して感性を引き出したりできるよう, 指導方法を探求する。	1-② 4-②	B	・なかよしタイムの回数, やり方(年間4回程度, 日時はグループごとに設定)については今年度同様継続していきたい。 ・交流給食等, 他学年, 他課程の交流場面を増やしていきたいよう計画していきたい。
			イ	各種交流活動や合同学習などへの積極的な取り組みを通し, 人とかかわる力や豊かな心を育成する。(地域交流, 学校間交流, 居住地校交流, さわやかマナーアップ運動, 花いっぱい活動, なかよしタイム(異学年交流), 他学年などとの合同学習, 交流給食など)	3-①② ③④ 4-②	B	

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
中学部	(1)	生徒一人一人の教育的ニーズを的確に把握するとともに、個に応じた指導内容や方法を工夫し、授業改善に努める。	個別面談や家庭訪問、連絡帳等を通して保護者との連携を図ったり、連絡ノート等を活用して医療機関や福祉機関などとの連携を図ったりしながら、一人一人の教育的ニーズを的確に把握する。	1-①② 4-①②③	C	<ul style="list-style-type: none"> ・課程ごとに学習する集団を工夫して授業を行うことができた。今後は、学部職員で生徒の指導・支援方法についてさらに共通理解し、個に応じた学習や活動を工夫する必要がある。また、生徒の実態を考慮し、教育課程・グループ編成等を変えていく必要がある。 ・ICT機器の充実を図るためにも、教員がさらに活用できるように研修する必要がある。 ・今後も、各教科の系統性を踏まえた学習内容の見直しを行っていく必要がある。 ・より特別な支援を必要とする生徒への支援として、今後も早めにケース会議を実施していく必要がある。
			個別の教育支援計画と指導計画に基づき、学年会やグループ会等を通じて教職員が共通理解を図りながら、日々の授業作りを工夫し、改善に努める。(系統性を踏まえた指導、略案作成、ICTの活用、T・T指導の充実など)	1-③④ 3-② 4-③	C	
	(2)	健康で安全・安心な学校生活を送れるように環境を整えながら、健康の維持、体力の向上に努める。	常に整理・整頓を心がけ、学習や活動しやすい環境整備に努める。(教室・グループ室・廊下などの清掃・整理・整頓)	2-①②③ ④	C	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の清掃とともに、定期的に教室環境や教材室の整理をすることで、学習しやすい環境を整えることができた。生徒の安全面への配慮をするために、さらに教材の精選や収納場所の工夫をする必要がある。 ・今後も保護者や主治医・看護職員・養護教諭との連携を図っていき、さらに生徒一人一人に応じた自立活動を行えるよう工夫していく必要がある。
			生徒の実態を十分に把握するとともに、保護者や主治医・看護職員・養護教諭との連携を図りながら、個に応じた学習や活動を工夫し、実践する。	1-①② 2-② 4-③	C	
	(3)	一人一人の良さを認め合い思いやりの心を育みながら、主体的な生活態度の育成に努める。	教育活動全般を通して社会生活のルールやマナーを意識させるとともに、自主的・主体的な活動場を設定する。(学級活動、専門委員会、児童生徒会、進路を考える週間、休み時間)	1-④ 3-③⑤ 4-①	C	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部の目指していくものとして「挨拶・返事・時間を守る」として取り組んだ。その都度呼びかけ、全体的には意識することができてきたが、個人的にはまだ難しいので、引き続き道徳や学級活動等を生かして意識できるようにしていく必要がある。 ・下妻中や地域の方との交流や校外学習、修学旅行等を通して、様々な人とのかかわりを深めたり、経験を広げたりすることができたので、今後も生徒の実態に応じた内容・活動になるよう場の設定をしていく必要がある。
			集団活動において人とのかかわりを深めるとともに、経験を深め広げられるような学習内容・活動の充実を図る。(遠足、修学旅行、校外学習、交流及び共同学習など)	3-①②④ 4-②④	C	

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
高等部	(1)	ア	個別面談や相談の中で、生徒一人一人の教育的ニーズや進路指導上の課題を把握し、卒業後の自立と社会参加のため保護者と連携し、個別の支援計画・個別の指導計画・個別の移行支援計画を策定し支援に努める。	1-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習グループ間や各教科間で横の連携・協力が図れるとよい。また、教科担当者間で学習の状況について情報交換することで学習面でのアンバランス等、実態把握にもつなげていく。(課題の把握・実態の把握) ・実習期間だけでなく、生徒や教師が目標を意識できるよう、他授業とのつながりがあるとよい。(課題についての情報の共有) ・引き続き保護者と連携し、学年・グループでも情報を共有していくことに努める。 ・情報共有の方法について、現行の会議(学部会・学年会・グループ会等)のもちかたを工夫・改善する。 ・個別の教育支援計画の利用の仕方、書式、卒業する生徒の利用法などもう少し具体的に検討をしていく必要がある。 ・指導計画に基づいて学年会などで支援方法について周知することはできたが、実生活で実施できていない教員もいたため、更なる周知が必要である。今後は、学年会・グループ会などでの十分な検討を行い、共通理解のもと支援にあたるよう努める。 ・教育課程の改善については、令和4年度の完全実施に向け各教育課程会・学習グループ会・教育課程係会において、教育課程検討を計画的に実施していく。
		イ	個別の支援計画・個別の指導計画に基づき、課題を明確にして、指導内容の整理や支援について共通理解を図る。また、学習グループ会、学年会、学年主任会の連携を図り、進路体験実習、その他の教科や合わせた指導・自立活動との関連性を高め、効果的な指導を行う。	1-①②③	B	
	(2)	ア	教室、グループ室、廊下等の生活環境の整理整頓・清掃を心がけるとともに、教材教具の点検を実施し、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努める。	2-①	B	
		イ	一人一人の生徒の実態を十分に把握し、支援方法についての共通理解を図る。また、保護者や医療機関、養護教諭、看護職員と連携を図ることで、個や状況に応じた学習や活動を工夫し、健康や体力の維持・増進に努めていく。	2-② 4-③	B	
	(3)	ア	自己選択・自己決定の力を高める指導を重視し、学習場面及び学校生活全体を通して、様々な場の設定をするとともに、主体的に活動する時間を設定していく。また、実生活に結びつく体験学習を通して、成功体験を積み重ねることで、主体的に生きていこうとする態度の育成に努める。	3-①②③	B	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な活動・学びという視点を常に頭に止めながら、学部行事・内容を計画できるように努める。 ・障害の重い生徒の自己選択・自己決定・自己肯定感を育む活動について、研修や意見交換をしながら実態に応じた支援に努める。
		イ	様々な交流活動や集団活動の場の経験を通して、集団生活のルールやマナー、自己と他者とのより良い関係作りを意識できるような内容・活動の充実を図る。	3-①②③	B	

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価		課題及び次年度(学期)への改善	
訪問教育	(1)	児童生徒一人一人の実態把握に努め、能力を引き出すために、個に応じた指導のあり方を工夫するとともに日々の学習の充実を図る。	ア 児童生徒や保護者の教育的ニーズを十分に把握し、個に応じた指導内容・方法や教材教具の工夫を図り、個別の教育支援計画の実践・改善・充実に努める。(担当者会議・他校との情報交換など)	1-①②③ 3-③⑤ 4-③	B	B	・個に応じた指導、教材教具や授業の組立方法について更に他校との情報交換ができるとよい。
	(2)	健康や安全に配慮しながら授業を行い、児童生徒の健康や体力の維持・増進に努める。	ア 保護者からの聞き取りや状態の観察等で、訪問時の体調を的確に把握する。(毎日の健康観察の様子を記録しておく)	1-①②③ 2-①②③	B	B	・保護者からの聞き取りや健康観察を必ず行い、児童生徒の体調を把握した上で授業を行うことができた。今後も怠りなく続けていきたい。
			イ 必要に応じてリハビリの際に同席するなど医療機関と連携を図り、日々の授業の参考とする。	1-①②③ 2-①② 4-②③	B		
	(3)	訪問担当者間や所属学部学年との連携を図り、共通理解のもとでスクーリングや映像での交流を行い、友だちや集団を意識できるよう努める。	ア 訪問担当者打ち合わせや学部会等で訪問教育生の実態や近況の報告・連絡・相談をし、理解を深める。	1-①②④ 2-①② 3-③	B	B	・今年度は授業の持ち時間等の関係で担当者会を定期的に開くことが難しかった。報告・連絡など共通理解の図り方を工夫する必要がある。
			イ 学年やグループへのスクーリング参加については、事前に所属学年と密に連携を図りながら、児童生徒の健康状態を的確に把握し、安全に十分配慮して実施する。(入学式・卒業式・文化祭・学部行事等)	1-①②③ 2-①② 3-③	B		

小学部[学年, 教科・領域] ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
1年	(1)	児童一人一人の実態を適切に把握し、個々の実態や課題に応じた個別学習や集団学習の充実を図る。	個別の教育支援計画・指導計画に基づき、児童の実態やニーズに応じた授業の充実を図る。教材・教具の工夫やICTの活用による教育活動を図る。	1-①②③	C	・ICTの活用については、各授業の中でタブレット端末を使って写真を撮ったり、プロジェクターからスクリーンに写して、パワーポイントを見たり、スイッチ教材を使用したりして学習に取り組んだが、今後もさらに活用していく必要がある。
			各グループ・学年の学習の経過や結果を、学年会で情報交換し、支援方法等の共通理解を図る。学習の記録を行い、個々の目標や課題解決に向けた指導・支援を行う。	1-②④	B	
	(2)	学校生活のリズムを身に付け、健康で安全な生活を送ることができるようにする。	登校時に検温・パルス測定や表情の観察等で児童の体調を確認したり、保護者からの聞き取りや連絡帳等で連携を図ったりしながら、児童の体調や排せつや睡眠等の生活リズムを適切に把握し、健康で安全な学校生活が送れるようにする。	2-②	B	・外部専門家相談や医療者等関係機関と連絡ノート等を通じて助言をいただいたりすることができた。病状等今後も変わっていくことがあるので、引き続き連携を図っていく必要がある。
			保護者や医療機関、関係機関と連携を図りながら、児童の身体の様子を把握し、健康の保持や身体の動き、摂食等の支援方法の充実を図る。また、医療的ケアについては、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。	2-①②	B	
			児童が安全、健康に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整え、安全面に配慮し、安心して学校生活を送ることができるように支援する。	2-①②③	C	
	(3)	同じ学年の友だちや教師等、人とのかかわりを大切にしながら、集団活動に慣れ、コミュニケーションの基礎を養う。	あいさつや呼名等、身近な人を意識できるように友だちや教師とのかかわりの場面を多く設定する。また、新しい場所や人とのかかわりに慣れるよう、異学年、異グループでの学習場面を設定する。	3-③④	B	・、気持ちを伝えたり、意見を考えたりできるよう、次年度も異学年、グループ等の授業を設定したり、様々な人とかわる機会を設けていく必要がある。
			人とのかかわりの基礎を養い、集団生活においてのルールやマナーを身に付けることができるように支援する。	3-③④	B	

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
2年	(1)	児童一人一人の実態を把握し、個々の実態や課題に応じた、個別学習や集団学習の充実を図る。	個別の教育支援計画・指導計画、各教科・領域の系統性を踏まえた年間指導計画に基づき、児童の実態や保護者のニーズに応じた指導・支援を実践する。	1-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のニーズや児童の学習進度により、目標への手立てや支援方法について学年で検討し、見直したり確認し合ったりする機会を継続的に設定したい。 ・各グループ児童の体調面、家庭支援等については、学年会や放課後の時間を利用して共通理解を図ることができたが、学習の進度や支援方法、成果等の情報共有や検討については継続的に行えなかった。学年全体で児童の成長を見守る気持ちを持ち、計画的な話し合いの場を設定したい。
			各グループ・学年での学習経過や成果を、学年会やケース会で情報交換し、より良い支援方法や課題点について確認し合うようにする。	1-①②	C	
	(2)	学校生活のリズムを身に付け、健康で安全な生活を送ることができるようにする。	登校時や学習時に検温やパルス測定を行い、児童の体調管理に努める。また、聞き取りや連絡帳等で保護者と連携を図りながら、児童の体調を適切に把握し、安全な学校生活が送れるようにする。	2-②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートの活用については、十分にノートを活用しながら自立活動等の指導内容や支援に活かしているケースがある一方、医療側の情報を保護者から聞き取る状態で、医療側とより効果的な連携が遅れてしまったケースもあった。現在ある連携ツールを活かして支援を行うため、医療側とやり取りする時期や活用方法を十分に理解し保護者と必要性を確認しながら活用していくようにしたい。 ・新しく学年に入った教員が、日々のケアに早く対応できるよう、引継ぎや手順を早い段階で研修するようにしたい。また、新規の申請等の手順や方法を全員で理解し対応できるように年度初めに確認したい。
			連絡帳や連絡ノート等を通して、保護者や医療機関と連携を図りながら、児童の身体の様子を把握し、健康の保持増進に努めるようにする。また、医療的ケアや座薬等の健康面については、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。	2-①②	C	
			児童が健康・安全に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整えたり、備品の整理整頓を心がけ、安心して学校生活を送ることができるようにする。	2-①②	B	
	(3)	人とかかわりを大切にしながら、集団活動に慣れ、一人一人の実態に応じたコミュニケーション能力の基礎を養う。	あいさつや呼名、ふれあい遊び等、身近な人や他学年の友だち、教師とかかわり合う場面を多く設定する。また、興味・関心のある教材・教具のやりとりを通して、相手を意識できるようにする。	3-①④ 4-②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよしタイムや隣接での授業、自活の個別課題の中で友だちや教師とかかわりをもつことができたが、実施回数や活動内容等について十分な検討と話し合いの機会を設定したい。また、年間計画作成時より発達年齢や系統性を踏まえた授業計画を考えたい。
			教師が手本となり、挨拶や会話を通して、コミュニケーションの基礎を築けるよう支援する。友だちや教師とかかわりながら、感じたことを表出したり、自分の気持ちを表したりできるよう、教材・教具を工夫やICTの活用をし、発声や身振りを促す支援をする。	1-①②③	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
3年	(1)	ア	個別の教育支援計画・指導計画、各教科・領域の系統性を踏まえた年間指導計画に基づき、児童の実態や保護者のニーズに応じた指導・支援を実践する。	1-①②④	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や保護者のニーズに応じた支援・指導は、今後も続けていく必要がある。 ・I・II課程の児童については、適宜合同授業を設定し、集団での学習を実施した。I課程については、限られた時間の中で自分の考えをまとめたり発表したりする力を身に付けるための支援の工夫が課題である。II課程については、授業の中で児童同士がかかわり合える活動を増やしていく必要がある。 ・児童の様子については、生活面のみならず、学習の経過や結果、課題についてさらに共通理解を図り、学年全体で支援する必要がある。 ・学習評価の記録では、児童の学習の様子その他、次時の課題、教師側の支援の課題などを記録し、授業改善につなげた。今後も評価の在り方の工夫をさらに図っていく必要がある。
		イ	学年会やグループ会で児童の学習の経過や結果について情報交換し、支援方法などの共通理解を図る。また、学習の評価については、記録の工夫と共に児童の学習の様子や次時の課題を明確に示すことで、個々の目標や課題解決に向けた指導を実践する。	1-①②	C	
	(2)	ア	連絡帳や登校時の聞き取り等で、保護者から児童の体調を確認したり、検温や酸素飽和度の測定、表情や発作の様子等の観察、記録を行い、児童の体調を十分に把握し、安全に学校生活を送れるようにする。	2-①②	B	
		イ	連絡帳や連絡ノート等を通して、保護者や医療機関と連携を図りながら、児童の身体の様子を把握し、健康の保持増進に努めるようにする。また、医療的ケアや座薬等の健康面については、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。	2-①②	C	
		ウ	児童が健康・安全に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整えたり、備品の整理整頓を心がけ、安心して学校生活を送ることができるようにする。	2-①②③	B	
	(3)	ア	あいさつや呼名、手遊び歌やふれあい遊び等とおして、友だちや教師を意識できるよう、興味・関心のある教材・教具のやりとりを通して、人のかかわりの場面を設ける。また、なかよしタイムで他学年の教師や友だちとのかかわりをもち、交流の充実を図る。	1-①② 3-①③④ ⑤	B	
イ		友だちや教師とのかかわりに応じて感じたことを表出したり、自分の気持ちを表したりできるよう、発声や身振りを促す支援をする。I・II課程の児童に関しては、教師が手本を示し、自分の気持ちを表現できる指導を行う。	1-①② 4-②	C		

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
4年	(1)	児童一人一人の実態や障害特性を適切に把握し、個々の実態や課題に応じた個別学習や集団学習の充実を図る。	複数の教員による情報収集、多面的な実態把握に努め、個に応じた教材、教具の工夫、学習環境の整備を行う。また、個別面談時には個別の教育支援計画、指導計画について共通理解を図る。	1-①② 2-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学年会やグループ会で教員間の情報交換を密に行い、児童の実態把握や変化についての共通理解を深めていく必要がある。 ・学年をまたがるグループでの授業(Ⅲ課程体育)についての情報交換が少なかった。時間を決めて行っていく必要がある。 ・授業内容や課題について、記録表への記入はあるが、振り返りをする時間をもつことが少なかったので、振り返る機会を作っていく。
			学年会やグループ会で児童の学習の経過や結果、変化について情報交換をし、支援方法等の共通理解を図る。また、記録表の工夫を図り、学習の記録を行う。	1-①② 2-①②	C	
	(2)	保護者や関係機関との連携を図り、健康で安全な学校生活を送ることができるようにする。	保護者との連携を密にし、連絡帳や登校時の聞き取り等で児童の体調を確認したり、検温や酸素飽和度の測定、表情や発作の様子等の観察、記録を行い、児童の体調を十分に把握する。	2-①②③ 4-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者を通して医療機関との連携を図ることができたので、連絡ノートを活用が少なかった。必要な時に連絡ノートを活用できるように努めていきたい。 ・医療的ケアや座薬挿入など緊急時のマニュアルを作成しているの、定期的に見直し共通理解する必要がある。
			連絡帳や連絡ノート等を通して、保護者や医療機関と連携を図りながら、児童の身体や健康の様子を把握する。また、医療的ケアや座薬の挿入等については、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。	2-①②③ ④ 4-①②③	C	
			児童が健康・安全に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整えたり、備品の整理整頓を心がけ、安心して学校生活を送ることができるようにする。	2-①②③ ④	B	
	(3)	集団生活の中での人とのかかわりを大切にし、一人ひとりの実態に応じたコミュニケーション能力の基礎を養う。	集団を意識したり、自分の気持ちを伝えたりすることができるよう、学級活動やⅡ課程Ⅲ課程合同授業を設定したり、エンジョイタイムや学部の行事等において、他学年の友だちや教師とのかかわりの場面を多く設定したりする。	1-①② 3-①③④ ⑤	D	<ul style="list-style-type: none"> ・Ⅱ課程Ⅲ課程合同授業の回数が少なかった。授業時間の設定と、内容の充実を図っていく必要がある。
興味・関心のある教材・教具のやりとり等、友だちや教師とかかわる場面を設定する。教材・教具の工夫やICTの活用をし、発声や身振りを促す支援をする。			1-③ 3-①③④	B		

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善
5年	(1) 児童一人一人の障害の特性や発達段階を把握し、個に応じた個別学習や集団学習の充実に努める。	ア 複数の教員による情報収集、多面的な実態把握に努め、個に応じた教材、教具の工夫、学習環境の整備を行う。	1-②③ 2-①② 3-⑤	B	B ・学年合同の授業については、教員が交代で支援にあたることはできたが、個別課題については担当を替えるのは3学期以降になってしまった。発達段階について研修を深め、教材についても検討し、早い時期での実施ができるようにしたい。
		イ 学習の経過や変化について、記録を基に学年会やグループ会で話し合い、支援方法について共通理解を図り学年の教員全員で支援できるようにする。	1-①② 2-①②	B	
		ウ 個別面談時には、保護者に学校での様子を写真、動画を活用し説明することで、個別の教育支援計画、指導計画について共通理解を図る。	1-②③ 2-①②	B	
	(2) 保護者や関係機関との連携を図り、健康や安全に配慮し、児童の実態に応じた生活習慣の確立を図る。	ア 健康で安全な学校生活を送れるよう、体調や生活上の変化について保護者との連携を密にする。	2-①②	A	B ・外部専門家や保護者を通じて情報を得ることで指導内容、支援方法を検討できたが、連絡ノートの活用を密にし、より良い指導の充実を図りたい。
		イ 外部専門家や連絡ノートの活用を通して、保護者、関係機関との情報交換を行い、共通理解を図り、指導内容、支援方法の充実を図る。	1-①②③ 2-①② 4-④	C	
	(3) 集団活動の中で人とかかわりを大切にし、コミュニケーション力を高めることができるようにする。	ア 学級活動やエンジョイタイム、学校間交流等において、友だちとかかわる場面を多く設定し、集団を意識したり、自分の気持ちを伝えたりすることができるように支援する。	3-①③④	B	B ・タブレット端末やスイッチ教材等を活用したコミュニケーション手段を検討したい。毎日使用できる環境を作りたいので、教材の補充と研修が必要である。
イ 写真、絵カードや具体物等を活用して自己選択をしたり、表情や発声、動作での意思表出を教師が相手に伝えたりすることで、楽しくコミュニケーションをとることができるように支援する。		1-①②③ 3-①③	B		

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

6年	(1)	児童一人一人の実態を適切に把握・評価し、個々のニーズや課題に応じた個別学習や集団学習の充実に努める。	ア	個別の教育支援計画・指導計画に基づき、保護者との連携をとりながら児童の実態や教育的ニーズに応じた環境を整える。	1-①②③	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領を踏まえた課題設定および学習内容の検討を行っていく必要がある。 ・児童の実態に応じた教材・教具の工夫を継続して行い、一定のスパンでの評価・改善を行っていく必要がある。 ・児童一人一人の反応よりよく引き出せるため、今後も計画的にタブレット端末を活用していきたい。 ・十分な活動ができるよう活動内容や活動スペースを含め、授業の在り方について検討や工夫が必要である。 ・児童の様子や評価を毎回記録しているが、併せて授業の評価も忘れずに行い改善する必要がある。
			イ	児童一人一人の学習の経過や変化等の情報を日常的に交換し合うことで共通理解を図る。児童の課題に向けた授業の内容・新学習指導要領、諸検査などに基づいた系統性を踏まえ、指導・支援を実践する。	1-② 3-①	C		
			ウ	教材や教具の工夫、ICTの活用などを通して、児童の実態に応じた指導・支援を実践し、自ら学びに向かう力を養う。	1-③	B		
	(2)	保護者や関係機関との連携を図りながら、健康の維持や安全管理に努め、児童が健康で安全な学校生活を送ることができるようにする。	ア	家庭や地域、関係機関と連携を図りながら児童の身体の状態を把握し、健康の維持・体力の増進に努める。また、医療的ケアが円滑に進むよう配慮したり、緊急時に備えた対応について実技研修を行い共通理解を図る。	2-①②	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・事故が起きないように言葉をかけたり、緊急時に備えた実技研修を増やしたり、教員間で理解できる機会を多く設ける必要がある。（カニューレ抜去時やSPO2低下時等）
			イ	体調管理ができるように、服薬や日々の食事の様子を把握し、必要に応じて連絡帳や電話連絡を通して保護者と連携する。また、車いす操作、ベッドの点検など、安全面に配慮し、安心して活動に取り組めるように努める。	2-①②③	B		
	(3)	集団活動の中で、人とのかわりを大切にし、児童一人一人に応じたコミュニケーション能力の向上を図りながら、楽しい学校生活を送ることができるようにする。	ア	学級活動や係、エンジョイタイムや異学年交流、学部の行事等において、集団の中で友達と協力したり、助け合ったりする活動場を多く設定する。また、場面に応じた言葉かけや手本などの支援を行うことで、ルールやマナーを意識したり、身に付けたりすることができるようにする。	3-② 4-①	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・エンジョイタイムや異学年交流などでは友だちと協力したり、助け合ったりする活動を経験することができた。交流活動を継続する中で、今後はコミュニケーション能力を高められるような場面の設定、個々の能力に応じた教材の活用などを検討していく必要がある。 ・タブレット端末等ICT教材を積極的に活用して、挨拶、コミュニケーションを身に付けていけるようにしたい。 ・同じ学年でも課程が違っていると、かわる活動場が少なくなるので、意識して場面設定をしていく必要がある。
			イ	人とのかわり方の基礎を養うために、ICT教材を活かしたり、サインの手本を示したりすることで、児童一人一人に応じたコミュニケーション手段を身に着けることができるように支援する。	1-② 4-②	C		

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

各教科の指導	I	(1)	児童一人一人の実態に即した授業内容・展開を工夫したり、教材を用意したりして、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることができるよう支援する。	ア	児童の実態を的確に把握し、体験的な学習を取り入れながら、学習を進めるように努める。また合同で学習する時間を設定することで、他者とのかわり方を身につけられるようにする。	1-①②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、道徳や自立活動の時間に合同授業を多く取り入れ、他者とのかわり方を学ぶ機会を多く計画、実施していけると良い。 ・各教科の中で学校図書やICT機器を活用することで、児童の興味関心も引き出せるため、今後も積極的に活用の場を増やしていきたい。 ・児童の実態に応じて、苦手なところや補充が必要などのポイントを絞れるように、定期的に確認テストを行ったり、授業の記録をとる際は新学習指導要領の観点に則って記録をとったりすることが必要である。 		
			イ	学習の定着を図るため、プリント、ドリル学習などで繰り返し学習できるようにする。また、学校図書やICT機器を利用した学習を多く行う。	1-②③ 3-⑤	B					
			ウ	定期的に学習の習熟度を確認しながら、既習した学習内容の復習をする。	1-②	C					
	(2)	安全な学校生活を送るとともに、体力の向上と身の自立を図る。	ア	体育や自立活動を通して、健康の維持・増進に努める。	2-②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身体に興味をもち、できることを増やしていけるように、体育や自立活動においては、この活動を行うことでどのような効果があるのか等やりとりをしながら繰り返し取り組んでいくことが必要である。 			
			イ	体育や自立活動において、体力の向上や身の自立のための動きの習得や、身体を動かす仕組みについての理解を深める機会を設定する。	1-①② 2-②	B					
	II	(1)	体験的な活動や様々な学習活動を通して、生活に必要な知識や技能を身につけ、自ら考え行動する力を育てる。	ア	児童の実態や学習到達度に合わせ、学習内容を選定したり学習時期の調整を行ったりするなど教科の系統性や領域を考慮しながら、体験的な活動を取り入れたり教材・教具を工夫したりする。	1-①②③ 2-①② 3-①③④ ⑤	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・校内では経験できない活動ができる校外学習については、系統性を踏まえた上で、児童の実態に応じて活動内容や回数を計画していく。 ・隣接学年や合同授業での学習計画の際には、各学年の児童の実態や配慮点について、十分に確認する機会を定期的に、継続的に行っていく。 ・児童の実態や学習の系統性、目標や手立ての検討や確認について共通理解を図って支援するために、年度初めに、旧担当と新担当での引継ぎを徹底するとともに学年との連携を図る。 		
				イ	自立活動や他の教科と関連付けたり、綿密な打ち合わせを行い教職員の共通理解を図ったりすることで、児童の実態に応じて計画的に学習活動を行う。	1-①②③ ④ 2-①②	C				
		(2)	あいさつや返事など基本的な生活習慣を確立するとともに、周りの人とやりとりする力を培う。	ア	学校生活全般において、友だちや教師、保護者、来校者の方々とあいさつを交わす場を大切にするとともに、学習場面や交流給食等においても、多くの人とかわることができるように、異学年との交流を定期的に設定する。	1-②④ 3-①③④	B			B	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの時間や週1回設定した合同生活単元学習のように、交流する活動内容や日時など、年度初めに綿密に計画することで、年間をとおして異学年交流を定期的に行うようにする。
				イ	児童の実態に応じて、サインや写真、ICT機器、絵カード、シンボルマーク等を活用し、繰り返し学習することで定着を図っていく。	1-①②③ ④	B				
	III	(1)	体験的な活動を通して、興味関心の幅を広げるとともに、人のかかわりを大切にしながら、気持ちを表現する力を伸ばすなど、個に応じた支援の充実を図る。	ア	興味関心の幅を広げるために、様々な体験的な活動を設定するとともに、児童の実態を的確に把握して教材・教具を用意し、提示の仕方を工夫する。	1-① 1-②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、各児童の目標を踏まえた学習内容を設定し、教材・教具の工夫をしていきたい。学年を越えて教材・教具の貸し借りも検討していきたい。 ・児童同士のかかわりを増やすための場の設定を行ったり、次年度も隣接学年と体育等の授業を設定したりして、様々な人とかわる機会を増やしていきたい。 		
				イ	人とかわる力を伸ばせるように、授業等で友だちや教師等、様々な人とかわる機会を多く設定する。また、必要に応じて他学年との交流や合同授業を設定する。	1-①	B				
		(2)	家庭や医療機関等と連携を深め、健康で安全な学校生活を送ることができるようにする。	ア	こまめに健康観察を行い、教師間で情報を共有して、適切な対応を行う。	2-① 2-②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、体調面を考慮し、学習内容、活動内容を決め、学習活動を行っていくようにしていきたい。 ・必要に応じて医療機関や施設との連携を図ったり、セラピストの助言を受けたりして、適切に支援していきたい。 		
イ				連絡帳や連絡ノートを通して家庭や医療機関との連携を図り、健康で安全な教育活動を行う。	2-②	B					

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善
道徳	(1) 学校の教育活動全体を通じて、道徳的価値(人間らしさ)の自覚を深め、自分の生き方について考えとともに人間としてよりよく生きていくための道徳的実践力を育む。	ア 道徳的価値の自覚を深めるため、児童の実態や発達、特性に応じ、魅力的で身近な題材を取り入れたり、自己を見つめる機会を作ったりするなど、教材や場面設定の工夫をする。	1-② 3-③	C	C ・教科書での学習で理解や思考が不十分な場合は、日常生活場面でも道徳的価値を高められるように、意図的な言葉かけ、働きかけをしていきたい。 ・学年ごとにそれぞれ教科書があるため、合同授業を計画することが難しい。次年度は、同じ内容項目の単元を合同で実施できる機会を増やせるように、児童の実態に合わせて学習内容や時期を変更したり、教材を工夫したりする等、柔軟に対応できると良い。
		イ 道徳の時間の指導にあたっては、児童が自分への問いかけを深め、自分の未来や希望をもつことができるように話し合い活動や体験的な活動を多く取り入れるようにする。	1-② 3-③	C	
特別活動	(1) 集団生活を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としての意識をもちながら、自分の役割を果たそうとする自主的、実践的な態度を育てる。	ア 学級活動や専門委員会などの活動において、一人一人の実態や希望に応じて、活動内容や役割を設定し、主体的に活動に取り組めるように支援する。	3-①④	B	B ・専門委員会については、参加できる児童が少ないため、活動内容を検討したり、学級活動をより充実させていく必要がある。 ・なかよしタイムでは、他学年とかかわる場を設けることができたが、より充実をはかるために回数や内容について検討する必要がある。
		イ 専門委員会やエンジョイタイム、学部行事など、他学年との集団活動の場を積極的に設け、お互いの存在や良さに気付いたり、自分の役割や係の仕事の仕事を自主的に行ったりしようとする態度を養っていく。	3-①③	B	
自立活動	(1) 関係機関との連携し、適切で根拠ある自立活動の指導の充実を図る。	ア 「自立活動を行うにあたって」や「連絡ノート」を保護者との共通理解のもとに活用し、医療関係者(Dr, PT, OT, ST等)と情報交換を密に行う。個別の指導計画や個々の自立活動メニューの目標や課題の共有を図る。	1-①② 4-①②③	C	C ・児童の担当セラピスト等の医療者から、情報をいただくことができて来ているが、活用しきれていないことがあるので、「自立活動を行うにあたって」の文書や連絡ノートを定期的に見直すなど充実した活用をしていく。 ・外部専門家相談での研修内容が単発になりがちなので、長期的な視点で取り組めるようにしていく。
		イ 各児童生徒の担当セラピスト等の関係機関との連携を図りながら、必要に応じて、外部専門家(PT, OT, ST)相談を活用し研修を深め、指導の充実に努める。	1-①② 4-①②③	C	
総合的な学習の時間	(1) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てる。	ア 各教科と関連づけながら、様々な体験活動を取り入れたり、友だち・教師、地域の人とのかかわる場を設定する。	1-②④ 3-① 4-②	B	B ・国語や社会、理科などの学習と関連付けながら学習を進めることができたが、友だちや地域の人とかかわる機会は少ない。体験的な活動を様々な人と行えるような場を設定していく必要がある。 ・図書室やパソコン等を使って調べ学習を行うことができた。タブレット端末を利用するなど、より簡単に調べ学習ができるように環境を設定していけるとよい。
		イ 問題の解決や探究活動にあたっては、図書室の活用やパソコン等の情報機器を活用し、自分で調べてまとめることができるよう環境を設定していく。	1-③ 3-⑤	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
1年	(1)	生徒の実態や障害の特性, 教育的ニーズを的確に把握するとともに, 個別の教育支援計画及び指導計画に基づき, 個々の課題を達成するために指導・支援内容を工夫し, 授業改善に努める。	一人一人の障害の特性や実態, 教育的ニーズを把握し, 必要に応じて保護者や関係機関と連携を図りながら, 個別の教育支援計画・指導計画を作成し, 個に応じた指導・支援に生かす。	1-①②③ 3-①	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりについて保護者や関係機関と連絡を取りながら指導・支援を行ってきたが, 生徒に応じた適切な教材や体調面を配慮したかかわり方等今後もより詳しく実態を把握していく必要がある。また生徒の情報を学部学年に正確に伝えていくようにして, 対応していく。 生徒の情報を得るために連絡ノートを有効的に活用していくようにしていく。 授業実践の中で個々の実態に合った教材を意識して使っていたが, ICT機器も含めより効果的な教材の検討が必要である。
		生徒一人一人の指導・支援内容について, 連絡帳や連絡ノート等を活用して, 保護者や関係機関と共通理解を図り, 適切な指導・支援の在り方について連携・確認を取りながら進める。	1-①② 2-② 3-①②	C		
		学年会やグループ会等で生徒の特性・支援内容等についての共通理解を図りながら, 日々の授業実践の工夫・改善に努める。(略案の工夫, RPD, CAサイクル, 合理的配慮, ICTの活用, T・T指導の充実)	1-②③ 3-③	B		
	(2)	生徒が健康で安全な学校生活を送れるように環境を整えるとともに, 健康の維持, 体力の向上に努め情緒の安定を図る。	生徒の健康状態や体調の変化について, 連絡帳などを通して保護者との連絡を密に取り, 必要に応じて養護教諭や看護職員とも連携を図りながら健康の維持に努める。	1-② 2-①②③	B	<ul style="list-style-type: none"> 縦割りグループでの学習が多いので, 個々の健康状態について学部全体で共通理解できるような伝達方法を検討していく。 生徒が活動しやすいような教室配置を検討したうえで, 教員や生徒の気づきを生かした配置に変更して, 学年会等で変更箇所を見直すようにしていく。
			連絡ノートや外部専門家を活用し, 医療機関との連携を図りながら, 一人一人の障害の特性や実態を把握し, 指導上配慮すべき点, 健康の維持, 情緒の安定, 自立活動の課題などについて教職員間で共通理解を図る。	1-② 2-①②	B	
			教室や学習室, 廊下などの環境整備や安全点検を定期的に行い, 生徒が活動しやすい配置等に努めるとともに事故防止のための車いす操作や教室内での移動等危険回避の方法の支援指導を行う。	2-①②③ ④	B	
	(3)	集団活動を通して一人一人の良さに気づき, 他者とかかわりの中で相手を思いやる心を育むとともに, 社会生活に必要な力の育成とその支援に努める。	教育活動全般を通して生徒同士のかかわりがもてる場面を増やし, 互いの良さに気づき思いやりをもって活動に取り組める場面を設定する。	3-①② 4-①②③	B	<ul style="list-style-type: none"> 行事を通して学年や他学年の生徒とかかわりがもてるように取り組んできたが, 休み時間の有効な活用等でさらにお互いを意識しあう場の設定が必要である。 遠足や校外学習については, 生徒の実態や安全面に配慮して検討していく。 学年会等で進路に関する研修を行い, 保護者に情報提供できるように進路の知識を深める必要がある。
			進路や福祉関係の情報を教員間で共有し, 保護者への情報提供に努めるとともに, 人とかかわりを広げ, 多様な経験ができる行事や活動への積極的な参加を促し, 支援する。(遠足, 校外学習, 交流及び共同学習など)	1-② 3-②③ 4-①②	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
2年	(1)	生徒の実態や障害の特性、教育的ニーズを的確に把握するとともに、個別の教育支援計画及び指導計画に基づき、個々の課題を達成するために指導・支援内容を工夫し、授業改善に努める。	一人一人の障害の特性や実態、教育的ニーズを踏まえ、必要に応じて保護者や関係機関との連携を図りながら、個別の教育支援計画や指導計画を作成し、個に応じた指導・支援に生かす。	1-①② 3-①	B	・授業の中でICTを使って生徒のコミュニケーションやタブレット操作などの向上を行ったが、さらに研修をし、生徒のニーズに合ったICTの活用ができるように努めるようにする。
		生徒一人一人の特性に応じた指導・支援内容について、連絡帳や連絡ノートを活用して、保護者や関係機関と共通理解を図り、適切な指導・支援の在り方について職員間で共通理解をしながら進める。	1-①②③ 2-②④ 3-①②	B	B	
		学年会やグループ会等で生徒の特性・支援内容等についての共通理解を図りながら、日々の授業実践の工夫・改善をする。(略案作成、RPDCAサイクル、合理的配慮、教材・教具の工夫、ICTの活用、T・Tの充実、支援の在り方)	1-②③	B		
	(2)	生徒が健康で安全な学校生活を送れるように環境を整えるとともに、健康の維持、体力の向上、情緒の安定に努める。	生徒の健康状態や体調の変化について、連絡帳などを通して保護者との連絡を密に取り、必要に応じて養護教諭や看護職員とも連携を図りながら健康の維持や情緒の安定に努める。	1-②④ 2-①②③	B	・連絡ノートの項目を係と連携し、より共通理解を図れるようにする必要がある。
		連絡ノートや外部専門家を活用し、医療機関との連携を図りながら、一人一人の障害の特性や実態を把握し、指導上配慮すべき点、健康の維持、情緒の安定、自立活動の課題などについて教職員間で共通理解を図る。	1-①② 4-①②③ ④	B	B	
		教室や学習室、廊下などの環境整備や安全点検を定期的に行い、生徒が活動しやすい配置等に努めるとともに、学年会で生徒支援に関する共通理解やヒヤリハット報告・検討を行い危険・事故防止に努める。	1-①② 2-①②	B		
	(3)	集団活動を通して一人一人の良さに気付き、他者とのかかわりの中で相手を思いやる心を育むとともに、個に応じた社会生活に必要な力の育成とその支援に努める。	教育活動全般を通して生徒同士のかかわりがもてる場面を増やし、互いの良さに気付き協力して活動に取り組める場面を設定する。	3-①②③ ④⑤	B	・進路指導係との連携を密に行い、進路の情報提供を積極的に行えるようにする必要がある。
			進路指導係と連携し、進路や福祉関係の情報収集と保護者への情報提供に努めるとともに、人のかかわりを広げ、多様な経験ができる行事や活動への積極的な参加を促し、支援する。(遠足、校外学習、交流及び共同学習、地域活動など)	1-② 4-①②	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
3年	(1)	生徒の実態や障害の特性、ニーズを的確に把握し、個別の教育支援計画及び指導計画の充実に努めるとともに、個に応じた指導・支援内容を工夫し、授業改善に努める。	ア 一人一人の障害の特性や実態を把握し、各自のニーズを踏まえ、必要に応じて保護者や関係機関との連携を図りながら個別の教育支援計画や指導計画を作成し、個に応じた指導・支援を実践する。	1-② 2-①	B	・保護者や関係機関と共通理解を図り、指導・支援を進めてきたが、理解を得るのが難しいこともあった。引き続き、根気強く、丁寧な説明を行い、協力を求めていきたい。
		イ 支援目標や指導・支援内容について、連絡帳や連絡ノートを活用して、保護者や医療機関と共通理解を図り、適切な指導・支援の在り方について連携・確認しながら進める。	1-② 2-② 4-④	C		
		ウ 学年会やグループ会等で生徒の特性・支援内容等について教員が共通理解を図りながら、日々の授業実践に工夫、改善を加えていくようにする。(略案、授業研究、教材・教具の工夫、ICTの活用、T・Tの充実)	1-①③	B		
	(2)	生徒が健康で安全な学校生活を送れるように環境を整えるとともに、健康・体力の維持や情緒の安定に努める。	ア 生徒の健康状態や体調の変化について、連絡帳などを通して保護者との連携を密に取り、必要に応じて養護教諭、看護職員とも連携を図りながら支援、指導にあたる。	2-②	B	・生徒の健康・安全への配慮は今後も続けていく必要がある。 ・教室等の学習環境は老朽化しているが、定期点検に努め、破損箇所の改善に努める。
			イ 連絡ノートや外部専門家を活用し、医療機関との連携を図りながら、一人一人の障害の特性や実態を把握する。また指導上配慮すべき点、健康の維持、情緒の安定などの自立活動の課題について教員間で共通理解を図る。	2-② 4-③	B	
			ウ 教室や学習室、廊下などの環境整備や安全点検に努め、学年会でヒヤリハット報告・検討を行い危険・事故防止に努める。また緊急時の対応等を検討し、安全に実施できるよう準備を進める。	2-①②③	B	
	(3)	集団生活の中で一人一人の良さを認め合い、思いやりの心を育むとともに、社会参加に必要な力の育成とその支援に努める。	ア 教育活動全般を通して生徒同士のかかわりがもてる場面を適宜設定し、生徒同士が協力する楽しさや充実感を味わえるようにする。	3-①②③ ④	B	・進路に関する聞き取りや話し合いでは、外国人の生徒や保護者との間に言葉の壁があり、こちらの意図が上手く伝わらず、相手の話も理解できないことがあった。通訳を依頼しているが、当日キャンセルになることもあった。面談の日程を早めに設定するなどして、話し合いの機会を確保し、翻訳機の導入なども相談して保護者との意思の疎通を取れるようにしていきたい。
			イ 進路、福祉関係の情報収集と保護者への情報提供に努め、進路について考える機会を設定するとともに、多様な経験ができる場や機会への積極的な参加を促し、支援する。	4-④	C	

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連			
各教科の指導	I	(1)	各教科の学習において、基礎・基本的な内容の確実な定着を図る。	ア 年度初めに、担当者間で評価基準や生徒の実態について共通理解を図る。進捗や理解度、指導方法は学部会や学年会で情報交換を行い生徒一人一人の実態に応じた指導の充実を図る。	1-①②③	D	C ・年度初めに評価方法などの共通理解を図ったが、生徒の実態把握や指導法の共通理解のための時間を特別に設定したりはしなかった。担当者の個人の力量に負うところが多かった。どのような場でどのような形で共通理解を図るのがよいか検討できるとよい。
			イ 各教科、授業時数の確保に努める。	1-①②	B		
			ウ 定期的に小テストなどを実施したり、達成段階に応じた課題を出したりして、生徒の理解度や達成度を常に把握し、指導方法の見直しや改善を図る。	1-①②③	B		
	(2)	個々のニーズに応じた進路選択が行えるよう、適切な進路指導を行う。	ア 道徳の時間に、自己を振り返ったり見つめたりする時間を設けることで自己理解を深めるとともに、生き方や将来について話し合う機会をもてるようにする。	3-③	C	B ・3年生は単独での授業だったので、話し合いや自分と異なる他の生徒の意見が聞くことができず価値の深まりは難しかった。他学年との小集団での授業もできればよかった。 ・働く人へのインタビューや事務作業を行ったが、生徒の実態に合った適切なものであった。次年度も生徒の実態や成長の段階を踏んだ内容にしていく。 ・校歌指揮伴奏や生徒会活動、部活動に参加し、他学部の生徒や教師とも積極的にかわりをもった。次年度も機会を確保し、多くのかかわりをもてるようにしていく。	
			イ 「進路を考える週間」では、職業トレーニング体験や職場見学等、働くことを考えるきっかけとなる体験を取り入れる。また、高等部の実習報告会を参観し、高等部の進路学習のイメージをもてるようにする。	3-③ 4-②	B		
			ウ 人とのかわりを多くもつことができるよう、行事的活動などでは普段と異なる集団での活動機会を設けるようにする。	3-①②③ ④	B		
	II	(1)	日常生活の中で必要となる課題に対して、基礎的・基本的な学習に系統的に取り組むことで、日常生活に生かせる知識の習得や技能の定着を図る。	ア 身振り手振りやICT機器の活用など個々に必要とされる課題に継続的に取り組むことにより、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	1-①②③ 3-①	B	B ・繰り返しの内容を計画的に行いじっくり取り組める工夫をしたり、興味関心の高い内容を取り入れて意欲的に活動できたりしたことで、知識の習得を図ることができた。 ・各教科との連携が難しかったので、学習の記録だけでなく、教科担当者とのケース会の設定や、教科ごとの指導者の配置を検討していく。
				イ 教科ごとに指導者をほぼ固定し、また、学習の記録を生かして、課題内容や支援方法を精選し、個人の実態に合わせた知識・技能の定着を図る。	1-①② 3-②	B	
		(2)	自分の意見を発表したり、人の意見を聞いたりする経験を通して、場に応じた適切なコミュニケーション能力を身につける。	ア 学習内容に応じて柔軟なグループ編成を行い、生徒間で意見を交換したり自分の考えを発表したりする機会を多く設定し、コミュニケーション能力を高めるようにする。	1-①② 4-①	B	B ・生徒を中心としたコミュニケーションが図れるような場面を多く設定することができ、自分の考えていることを集団の中で発表することができた。今後も、会話でのやりとりの場面を多く設定し、相手の気持ちや意見を尊重できる話し合いの機会を増やすようにする。
イ グループ会等を利用して、教員間で生徒の実態について共通理解をし、生徒の身振り手振りおよび言葉や思いをできるだけ正確に読み取るように努める。				1-①② 3-①	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
各教科の指導	Ⅲ	(1)	生活のリズムを整えながら、健康の維持・増進を図る。	ア 検温、酸素飽和度、脈拍、表情などの健康観察を十分に行い、体調の管理・維持に努める。また、家庭や学部職員、養護教諭、看護職員と情報を共有し、連携を図りながら適切に対応する。	2-①②	B	C ・引き続き緊急想定訓練を早い時期に実施し、学部全体で緊急時に対応できるようにする。 ・連絡ノートを簡易化して医療者・教師・保護者双方に負担の少ない物にして、より密な連携を取っていききたい。メール等の活用。
			イ 外部専門家相談及び連絡ノートや医療相談などを活用して医療機関との連携を図り、自立活動や日常生活全般において身体機能の維持・増進に努める。	2-① 4-②	C		
	(2)	人とのかかわりや、様々な学習活動を通して、感情や意思の表出を促す。	ア 個々の生徒の実態や学習に取り組みやすい環境、教材・教具の提示方法などの支援方法について共通理解を図ることで、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。	1-①③	B	B ・2021年度完全実施に向けて、学習指導要領にある、「対話的な学び」のある授業の検討。他者とのかかわりを教員がどうとらえるのか、「視線を向ける」「手を伸ばす」「順番を意識する」など整理していく。	
			イ 五感を刺激する活動や運動、音楽を多く取り入れるなど活動を工夫することで、興味・関心の幅を広げるとともに、快・不快等の自発的な表出を促すために、支援の方法や教材・教具の工夫をする。	1-①③	B		
			ウ 他者とのかかわりを深めることができるように、場面の設定や学習内容、学習形態を工夫する。	1-①③ 3-①④	C		
	道徳	(1)	生徒の実態を踏まえ、道徳の時間を主要としながら、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲や態度などの道徳性を養う。	ア エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの手法等を取り入れ、体験的に感じ取り、学び合えるような機会を設定する。	1-①② 3-①③	B	B ・今年から学年ごとの実施になり、主に教科書を使用した。技能教科では小集団で授業を行っていて、意見も出せるので、道徳でも合同授業をとりいれてもよいのではないかと。 ・教科書の単元から学校生活に置き換えて考えることが難しい。普段の生活に生かすことができるようにしていく必要がある。
イ 学校生活を通して、道徳的価値について考えを深めたり、意見交換したりできるようにする。				1-③④ 3-③	B		
(2)		各教科、総合的な学習の時間及び特別活動と密接な関連を図りながら、道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。	ア 学校行事での様々な生活経験を通して、生徒の多様な活動場面をとらえ、「相手を尊重する」、「礼儀やマナーを理解する」、「社会の一員としての役割と責任を自覚し、ルールを守る」等の道徳的実践力を育成できるようにする。	1-①② 3-③ 4-①	B	B ・そのつど、よいことには称賛を、課題には支援をしてきた。まだ不十分なので今後も継続していく。	
			イ 地域交流や学校間交流、児童生徒会活動等を通して、社会の一員としての自覚を深めるとともに、自分の役割を考えたり、振り返ったりできる機会を設定する。	1-② 3-①③ 4-③	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
特別活動	(1)	ア	専門委員会や全校集会、学年・学級の活動を通して、他学部や他学年の児童生徒等、様々な人と一緒に行う活動場面を各グループで連携しながら設定し、協力して行えるように支援する。	1-①② 3-③	C	・各委員会で集会の企画や進行、意見箱の設置や回答を行うことで、話し合いや共同制作の場を設けることができた。また様々な生徒とかがかわることができるゲームを実施し、一緒に活動することができたが、活動内容や実施の機会などを検討する必要がある。 ・発言、選択、指差しなどで話し合い活動に参加できるようにしたが、実態に応じたコミュニケーション方法を工夫していく必要がある。
		イ	話し合い活動を取り入れたり、生徒の実態に応じたコミュニケーション方法を工夫したりすることで、積極的なコミュニケーションを行うことができるようにする。	1-①②	C	
	(2)	ア	中学部において、交流活動を行う機会を積極的に設定し、早期に計画を行って円滑に行えるようにする。	3-①④ 4-②	B	
		イ	様々な人とコミュニケーションを図ることができるよう、生徒の実態に応じた参加方法や参加回数、交流の場の設定などを工夫する。	1-①② 3-①④ 4-②	C	
自立活動	(1)	ア	「PEDI&ICFチェックリスト」から導かれる関連図を活用して、個別の指導計画や教育支援計画、指導計画に基づいた自立活動のメニューの作成に役立てる。	1-①② 2-①②	C	・「PEDI&ICFチェックリスト」を医療側に依頼するが、回収率が100%ではないこと、各家庭の任意であることで必ずしも関連図を基に自立活動メニューを作成できるわけではないので、連絡ノート医療機関との情報交換保護者と共有する方法について検討が必要である。
		イ	連絡ノートを積極的に活用して、医療関係者(Dr,PT,OT,ST等)と情報交換や目標の共有を図り、個々の課題解決や指導の充実に努める。	1-①② 2-② 4-③	B	
		ウ	学年のニーズを把握し、リハビリ相談、小児リハビリテーションネットワーク会議のケース会議等を活用して関係機関との連携を図り、指導の充実に努める。	1-①② 2-② 4-③	C	
	(2)	ア	外部専門家相談でのPT,OT,STからの助言等を、自立活動や日常生活の指導に活かし、長期的なスパンの課題設定に役立て、個々の課題に合わせた自立活動や授業の改善・充実に努める。	1-①② 2-② 4-③	B	
総合的な学習の時間	(1)	ア	各教科や道徳と関連付けながら、発達段階や系統性を意識した内容を精選し、指導・計画・授業実践に努める。	1-①② 3-③	B	今年の実践と反省を踏まえて、生徒の発達、進度に合わせた内容を考えていく。 花いっぱい活動で生徒によってはあまりにも子ども扱いされて嫌がる様子もうかがえたので、どの時間帯に参加するかは配慮したほうがよいと思われる。 1年、2年、3年と回数を重ねるごとに見直しをもった活動ができてきたので、保護者にももっと周知して生徒の姿を見ていただきたい。
	(2)	ア	学校間交流や花いっぱい活動等を通して、同年代の中学生や地域の方と積極的にふれあい、社会性を身につけられるようにする。	3-①④ 4-②	C	
		イ	進路を見据えた活動や体験的な学習を設定し、活動を通して自己理解を深め、将来の進路について自ら学び考える態度を育てる。	1-② 4-②	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
1年	(1)	ア	生徒・保護者のニーズを確認しながら個別の教育支援計画を作成し、個に応じた学習指導ならびに手立ての工夫・充実を図る。	1-②③	C	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動については、中学部から引き継がれたメニュー表を改善するなど、生徒の実態にあった指導内容を検討していく必要がある。 ・生徒の課題について、普段から情報共有が行えるように今後も話し合いの場を設定していく。
		イ	学習活動、特に自立活動の指導においては、より実態に応じた指導内容と方法を工夫し、授業の改善に努める。また、生活上の課題についてもアチーブメントシートを用いて教員間で共通理解を図り、手立ての工夫・充実を図る。	1-②	C	
	(2)	ア	教室、グループ室、廊下などの生活環境の整理整頓や清掃を心がけ、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努める。	2-①	C	<ul style="list-style-type: none"> ・下校時の清掃について、学年やグループで定期的に整理整頓を今後も行っていく。 ・相談支援員のモニタリングに参加したことで、施設利用状況や家庭での様子など生徒の情報深めることができた。今後も連携していくことが望ましい。
		イ	保護者や関係諸機関との連携のもと、学校生活における健康・安全面の問題を明確にし、体力と身体機能の維持・向上に努める。	2-①②	C	
		ウ	他者とかかわることができる活動や各自がもてる力を発揮できるような学習内容を考え、自己選択、自己決定できるような場面を設定する。	3-①③	B	
	(3)	ア	生徒、保護者のニーズを確認しながら、進路指導上の課題を明らかにし、その課題を進路体験実習、作業学習、その他の学習の中で解決できるよう取り組み方と手立てを考えていく。	1-②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者に対して、今後も就労や施設等の情報提供を行っていき必要がある。
イ		生徒の実態に応じた、就労や福祉施設等の情報提供を行うことにより、実態に合った進路想定を導けるように努める。	1-②	C		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善
2年	(1) 生徒一人一人の学習面・生活面の課題を的確に把握し, 学習内容, 指導方法の工夫・改善を図る。	ア 生徒・保護者のニーズを確認しながら個別の教育支援計画を作成し, 個に応じた学習指導ならびに手立ての工夫・充実を図る。	1-①② 3-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識や技能を有する教員及び外部専門家の指導・助言の活用を通しての共通の取り組みを深めていくことが必要である。 ・課題に対して一定のレベルで共通した支援を継続できるよう共通理解を図りながら支援していく必要がある。 ・アチーブメントシートを教員間でも共有したり, 同じベクトルで支援をすることが必要である。
		イ 学習活動, 自立活動の指導においては, 実態に応じた内容と指導方法を工夫し, 授業の改善に努める。また, 生活上の課題についてもアチーブメントシートを用いて教員間で共通理解を図り, 手立ての工夫・充実を図る。	1-①②③ 3-①②③	B	
	(2) 健康・安全に配慮した生活環境の整備を行い, 体力と身体機能の維持・向上を図るとともに, 自己肯定感を育み他者を思いやる豊かな心の育成に努める。	ア 保護者や関係諸機関との連携のもと, 学校生活における健康・安全面の問題を明確にし, 体力と身体機能の維持・向上に努める。生徒の健康状態を把握するため, 必要に応じてバイタルチェックをして健康に対する意識を高める	1-①② 2-② 3-①②	B	
		イ 掲示物等生徒の視点を配慮し, 教室, グループ室, 廊下などの生活環境の整理整頓や清潔を心がけ, 安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努めるとともに生徒への清潔意識の向上に努める。	2-①②③	B	
		ウ 他者とかかわることができる活動や各自がもてる力を発揮できるような学習内容を考え, 自己選択, 自己決定できるような場面を設定する。	1-①② 4-①②	B	
	(3) 生徒一人一人の進路想定をふまえ, 卒業後の社会参加に必要な態度や技能の育成に努める。	ア 生徒, 保護者のニーズを確認しながら, 進路指導上の課題を明らかにし, その課題を進路体験実習, 作業学習, その他の学習の中で達成できるような具体的な取り組み方と手立てを考えていく。	1-①② 3-①②	B	
イ 生徒の実態に応じた福祉サービスの活用を促したり, 福祉施設等の情報提供を行ったりすることで, 実態に合った進路想定に導けるように努める。		1-①② 4-①②	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
3年	(1)	ア	生徒, 保護者のニーズを確認しながら個別の指導計画を作成し, 自立や社会参加に向けて身に付けたい力を明確にする。進路体験実習を適切に実施し, 必要に応じて進路面談などを行い, 進路決定ができるようにする。	1-①②	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路体験実習の評価票について本人・保護者に丁寧に説明する時間の確保が必要。 ・生徒の呼称への配慮
		イ	生徒一人一人の目標達成に向け, 指導内容や方法について探求し, 教員間の共通理解のもとでキャリア教育の充実を図る。	1-②	B	
	(2)	ア	生徒, 保護者のニーズや意見を反映させながら, 個別の教育支援計画を作成し, 個に応じた指導, 手立ての充実を図る。日常の観察などを通して一人一人の実態を的確に把握して指導にあたる。	2-②④ 4-③	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いについては, 他機関と連携する際など, 主任, 進路指導主事, 部主事に確認しながら進める必要がある。 ・生徒の体調面については, 学年内, 寄宿舎職員, 保護者と情報共有しあい, 安全に支援することができた。排泄や体調(月経など)の情報交換は大切であるが, 生徒本人や周囲にいる生徒の気持ちへの配慮が必要である。 ・指導上の共通理解はされていたが, 実際には実施できていないこともあったため, 実生活でどの教員も行えるように徹底していくことが課題である。
		イ	保護者や関係機関と連携を図りながら, 一人一人の障害特性や実態把握を行い, 指導上配慮すべき点, 健康の維持, 情緒の安定などについて教員間で共通理解するとともに, より実態に即した指導内容と方法を工夫し, 授業の改善に努める。	1-④	B	
	(3)	ア	学校生活において, 生徒の実態に応じた支援を行うことで成功体験を積み重ね, 自信と主体的に生きようとする意欲とを持たせ, 自己選択・自己決定できるような場面を設定する。	1-①② 2-①②	C	<ul style="list-style-type: none"> ・実態やグループを超えた関係をもてる仕組みづくりが必要である。特に朝の会や帰りの会のもち方を工夫し, 異なるグループの行事などを日々話題にすることで, 社会性や思いやり, 他者への興味関心を育む教育へと繋がっていくはずである。 ・LHRでは, 生徒が中心となってレクリエーション活動を計画してみても良いかと思う。
		イ	交流や部活動, 各種大会, 文化祭などをとおして他者とかかわりをもてる機会を設定し, 学年の一員として各自がもてる力を発揮できるよう促す。	3-①②	B	

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
各教科の指導	I	(1)	ア	生徒や保護者の進路希望を尊重し、進路指導部や関係機関との連携を図りながら、進路に関する情報提供を行う。また、生徒一人一人の進路課題に応じた体験的・実践的な学習を行うことで、生徒自身が課題を意識しながら主体的に進路選択できるように支援する。	1-①② 2-②	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望に沿った進路体験学習を実施することで、生徒が自分の課題をより明確にすることができた。関係者間で継続した連携が必要である。 ・基礎学力の習得に向けて、個々の実態に応じた支援方法について、多方面からの実態把握や指導法の研修が必要である。
			イ	アセスメントに基づき、教職員の連携を図りT、Tの充実に努める。また、ICTを適切な活用して個に応じた学習の支援方法を工夫し、基礎学力の向上に努める。	1-③④	B	
		(2)	ア	豊かな生活が送れるよう自分の健康管理に留意するとともに、行事や学年活動・部活動において活躍できる場を設定し、様々な活動への主体的な取り組みを促す。	2-①②④ 3-①②④	B	
	II	(1)	ア	基礎的な学力や知識の定着を図るために、高等部で身につけたい力から指導内容を検討し、内容の精選、実態に合った改善をしながら学期を超えて各教科や単元の関連性を持たせた体験的・かつ実践的な指導内容の厳選や授業改善を図る。	1-①②	C	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習や出前授業を取り入れ、各授業で関連性をもたせ、実践的な内容を取り入れることができた。生活経験が乏しいため、来年度以降も校外に出て公共交通機関を利用したり、卒業後にかかわる内容の出前授業が入ると良い。少人数が予想されるため他グループとの連携が必要。 ・作業学習では、各課の進捗状況を確認できるように作業班会が定期的に開かれると良い。 ・ICTを活用し、自分の考えをまとめたり、記録や録音、画像処理などを取り入れた。実際に経験を重ねることで操作に慣れてくることができた。今後も職員の研修を重ね、負担が偏ることなくすすめられると良い。
			イ	話し合いや他者とのかわり、自己決定する場、自分の気持ちの表出等実践的な場面を多く設定したり、繰り返し学習を行ったりすることで定着を図る。	1-②	C	
			ウ	場に応じた言葉遣いを身につけるためにロールプレイを多く設定する。また、簡単なサインをや身振り手振りを使ったり、ICT機器を活用したりする等、実態に応じた支援を工夫する。	1-①③	B	
		(2)	ア	個別の指導計画で設定した支援内容を学習へ反映させたり、進路指導主事との連携や外部講師、地域の人材を積極的に活用して想定される進路に応じて学習内容を精選したりする。	1-①② 4-②	B	
	イ		授業ごとの目標を略案等を活用し、授業ごとの生徒の個々のねらいを明確にしたり、授業の記録を行ったりすることで、次の授業に活かせるよう教員間で連携して評価・改善していく。	1-①②	C		

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
各教科の指導	Ⅲ	(1)	健康の維持・増進に努め、生活のリズムや生活習慣の形成を図る。	ア 健康観察や健康を維持するための水分補給、検温、血中酸素飽和濃度や脈拍の測定等を行う。	2-①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会のあり方を工夫する必要がある。 ・今年から3グループから4グループになった。教員が色々な生徒と接することが多くなったため、健康観察やトイレ、水分など生徒の実態を把握し、密に連携をとる必要がある。
			イ 朝の会やトイレ・水分補給等、毎日の生活を規則正しく行い、生徒自身が生活リズムを意識できるようにする。	2-①②	B		
			ウ 教師間の情報交換を密に行うとともに、家庭・医療機関においても連絡帳や連絡ノート等で連携を図り、個々の支援に活かすように努める。	1-① 4-②③	C		
	(2)	豊かな心の育成を目指し、人やものとのかかわりを通して興味関心の幅を広げ、感情や意思の表出と人やものに主体的にかかわる意欲の伸長を図る。	ア 生徒一人一人のコミュニケーション手段を観察し、生徒の反応を読み取るように努める。	1-②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルを活用し、生徒の実態を把握し、教員間で意識し、その都度、話し合いながら共通理解を引き続きとる必要がある。 	
			イ 生徒自らの主体性や気づきのような感情や意思の表出を図るため、場の設定や教材教具の工夫を行う。	1-①②	C		
			ウ 様々な友だちや教師と関わる場を設定を行い、変化に対しても見通しをもって安心して取り組めるように生徒の実態に応じて適切な配慮、支援に努める。	1-①② 2-①②	B		
	(3)	感覚機能や運動機能を高め、A DLの維持・向上を図る。	ア マッサージ、ストレッチ、運動等を行い、身体機能の維持・向上に努める。	2-①②③	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動6区分28項目を意識しながら、生徒の支援を行う必要がある。 ・外部専門家との連携をより積極的に図り、生徒の実態やできる活動について共通理解が図れるとよい。 	
			イ 感覚や身体に働きかけるように、五感を刺激する活動や運動、音楽的な活動などを取り入れる。	1-① 4-②	B		
	道徳	(1)	社会生活を送るうえで必要とされる道徳的な規範やモラル、人とかかわるスキルについて考えることにより、よりよい社会人となる自分を意識することができ、実践する力を養う。	ア 「高等学校道徳教育指導資料」茨城県教育委員会発行の内容に沿った指導を行う。	3-③	C	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で学習しているのでロールプレイを活動に入れることが難しかった。学習内容に取り入れる題材によっては、他学年との合同の学習時間を設けることが望ましい。 ・県教育委員会発行の副読本を使用することで求められる道徳の視点をまんべんなく学習することができるので今後も使用することが望ましい。 ・「自分だったらどう考えるか」をお互いに意見交換することができた。話し合いの中では、他の人との意見の違いを認め合うことができたが、実際の生活の中で活かしていくことが難しい場合があった。生活に活かしていけるようになる必要があった。 ・欠席者が出ると、活発な話し合い活動に発展することが難しいため、複数学年で対応するとよい。
イ 社会生活で必要とされる道徳的な規範やモラル、人とかかわるスキルを身に付け、実践できるようにロールプレイを行ったり、コーチングをしたり即自評価を行い、生徒自身が振り返りができるように努める。また、地域交流や学校間交流、児童生徒会活動等を通して、社会の一員としての自覚を深め、自分の役割を考えたり、振り返ったりできる機会を設定する。	3-①③④	C					

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善
特別活動	(1) 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。	児童生徒会、特別委員会など他学部の児童生徒との活動や文化祭に向けての学年での話し合い活動を積極的に行えるように支援する。	1-①②	C	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒間で活発な意見交換や活動ができるように、職員間で共通理解をや連携を図り、行事や専門委員会などの進め方を支援していく必要がある。 ・教育課程の違いから、学年全体で話し合う機会が少なかった。授業変更など積極的に話し合い活動がおこなえるように工夫していく。 ・委員会の実施回数が時期によって異なる為連続的に行った方がよい。
	(2) 集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	他校の生徒や地域の人々との交流活動の際には、障害特性や生徒個々の実態に応じて、支援する。	1-② 3-①② 4-②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校間交流、地域交流では、準備や活動をグループ別や全体など、各グループの実態に応じて内容を割り振り行ったことで、自主的に取り組めることが増えたため、今後も生徒の実態に応じたグループ編成や活動内容を考え、支援していく必要がある。 ・交流活動については、毎年同じ団体と交流をしているので隔年で交流相手を替えてもよいのではないかと。
	(3) 人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。	生徒の障害の状態や特性、生活経験の程度等を考慮し、進路指導や総合的な学習との関連を図りながら指導内容を厳選する。	1-① 3-③	C	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続した指導・内容を精選し、指導・支援していく必要がある。 ・各自の能力を生かせる活動を検討し、計画的に指導・支援していく。
自立活動	(1) 適切で根拠ある自立活動や日常生活における指導ができるように、関係機関との連携を図る。	ア 保護者との共通理解をもとに、連絡ノートを通じ医療関係者(Dr, PT, OT, ST等)と情報交換し目標設定や課題、指導内容の共有を図る。	1-①④	C	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や関係機関(施設等)とは共通理解を図りながら課題に対して進めていくことができたが、医療関係者との情報交換をする機会がなかった。必要に応じて設けていく。 ・医療者からの要請でカンファレンスに参加する機会があった。各関係機関が顔を合わせ充実した情報交換ができた。今後も継続してこのような機会を設けていくとよい。
		イ 必要に応じて自立活動相談、医療相談、小児リハネットワーク会議のケース会議、ソーシャルワーカーとの支援相談等を活用しつつ、関係機関との連携を図りながら指導の充実に努める。	2-② 4-③	C	
	(2) 肢体不自由特別支援学校の教職員としての専門性を高め、キャリア教育の視点に基づいた自立活動指導の充実に努める。	ア 医療関係者(Dr, PT, OT, ST等)の助言をもとに、卒業後の生活を意識した自立活動メニューの作成・活用を促し、指導に生かす。	1-①④ 4-③	B	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後を意識した自立活動を行い、進路体験実習等で利用施設との情報交換を行っているが、医療関係者との情報交換をする機会がなかった。 ・中学部から引き継がれた自立活動メニュー表見直し、生徒の課題にあった自立活動メニューをおこなえるとよい。 ・生徒が通院しているPTと学校の外部専門家のPTの役割の違いを教師が理解した上で、連携していく必要がある。
イ 外部専門家相談でのPT,OT,STからの助言等を自立活動や日常生活における指導に生かし、卒業後の生活を意識しながら、自立活動や授業の改善・充実に努める。	1-①④ 2-② 4-③	C			

高等部〔学年, 教科・領域〕 ※評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
総合的な学習の時間	(1)	将来の自立と社会参加を見越し、自ら学び、考え、主体的に判断しようとする態度を育てるとともに、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方や生き方を肯定的・発展的に考えることができるようにする。	将来の自立につながる体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れ、自ら学び、考え、主体的に判断しようとする態度を育てる。また、主権者教育については生徒の実態に応じた内容の充実に努める。	1-②④	C	<ul style="list-style-type: none"> ・交流及び共同学習については、市内県立高等学校生徒と自由に話をする時間をもうけたことで、両校生徒の自然な形での交流学习が展開できたので、今後も継続していく必要がある。 ・交流及び共同学習については、同じ相手と交流の回数を重ねたことで生徒達もリラックスして活動に参加する様子が見られた。今後も継続していく必要がある。
			交流及び共同学習や集団活動の場面で、まわりの人との意見交換や交流活動等、他者と協同して課題を解決しようとする活動や、まとめたり表現したりして自分の考えを深める活動を多く取り入れ、学び方やものの考え方を身につけられるようにする。	3-①	B	
			様々な場面で、体験的活動や個人の活躍の場を多く取り入れることにより、互いの良さに気づいたり尊重したりする気持ちを育て、成就感や協同の楽しさを味わえるようにする。	3-①③	B	

訪問教育〔教科・領域〕

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善	
自立活動	(1)	それぞれの障害の状態や発達段階を考慮しながら児童生徒の健康や体力の維持・増進に努め、自己の感情や意思を表現しようとする力を育てる。	拘縮予防などのために、顔や手足のマッサージ、関節の曲げ伸ばしなどを、できる範囲で実施する。(必要に応じてリハビリ見学や、連絡ノートのやりとりなどを行う。)	1-①② 2-①②③	B	<ul style="list-style-type: none"> ・表出する活動においてタブレットや通信アプリなどを利用することができた。更に五感に働きかけるような工夫をしていきたい。
			教師とのかかわりの中で、快・不快を含めた自分の意思を表情や身体の動きで表出することができるように、五感に働きかけるような教材教具の工夫をする。また、コミュニケーションの仕方を工夫し、意思の表出を促す。(ICT機器の利用など)	1-①②③ 2-①② 3-③ 4-③⑤	B	